

【日本会計研究学会 第74回大会 報告要旨】

スポーツ施設提供業における収益予測システムの設計に関する研究 —事例による有効性の検証を中心にして—

九州産業大学 手嶋 竜二 九州産業大学 金川 一夫

本研究の目的は、スポーツ施設提供業の企業を対象にして、長期的に収益を獲得し、企業全体の収益の質を高めるための収益予測モデルを設計し、その有効性を検証することである。ここで対象とするスポーツ施設提供業の企業とは、ゴルフ場、テニス・クラブ、スイミング・スクール、フィットネス・クラブのように、顧客に運動施設や運動指導を提供する企業のことである。本研究では、収益予測システムの提案を行い、フィットネス・クラブA社の事例をもとに、その有効性を検証する。

提案するシステムは、過去のデータから会員の平均定着率を計算し、この平均定着率をもとに在籍者数を予測する。そして、加重平均月会費を用いて収益を予測し、長期変動収益、短期変動収益、埋没収益に区分することにより、適切な施策の計画と実行を行なわせるものである。

スポーツ施設提供業では、設備投資額をどのくらいの期間で回収できるのかに最も関心を寄せている。回収計算は複数年にわたるので、数年先まで会員数を予測して収益を確保する必要がある。事例において、収益を予測し、その収益を3つに区分することにより、長期変動収益は長期的に収益を獲得するように、短期変動収益は企業全体としての収益の質を高めるように、事前統制を行なわせることを検証する。

ここで提案する収益予測システムの特徴は、事後的単一期間の会計データを取り扱う顧客別収益性分析の特徴をもっているとともに、さらに、事前的複数期間を対象とした施策の策定を可能にする特徴を併せもつというハイブリッド (Hybrid) 型のシステムである。